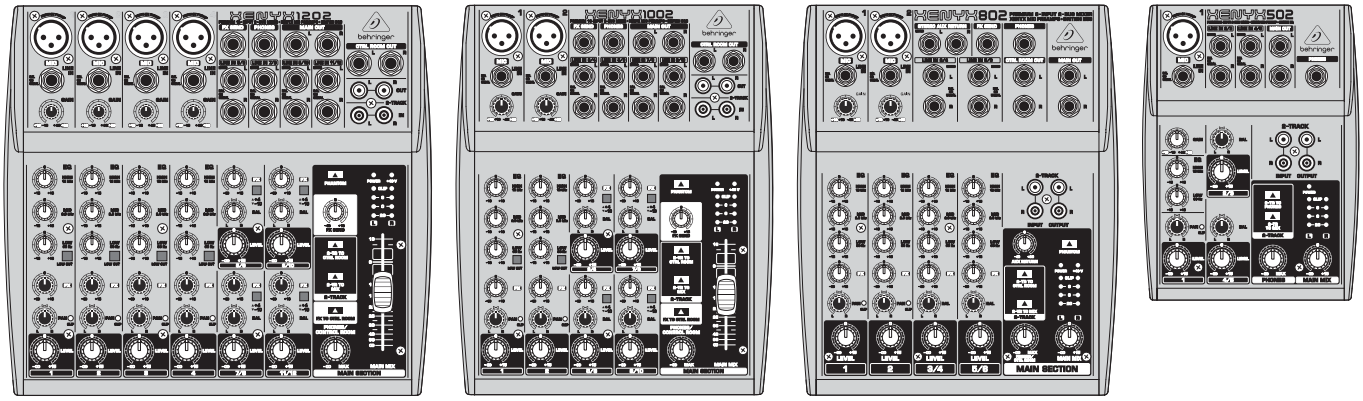
取扱説明書

JP



XENYX 1202/1002/802/502

Premium 12/10/8/5-Input 2-Bus Mixer with XENYX Mic Preamps and British EQs

V 1.0

behringer

JP

目次

ありがとう **2**
安全にお使いいただくために **3**
法的放棄 **3**
限定保証 **3**
1. 概要 **4**
1.1 一般的なミキサー機能 4
1.2 ハンドブック 4
1.3 ご使用の前に 4
1.3.1 出荷 4
1.3.2 使用開始 4
1.3.3 オンライン登録 4
2. 操作部および各接続端子 **5**
2.1 モノラルチャンネル 5
2.1.1 マイク入力およびライン入力 5
2.1.2 イコライザー 5
2.1.3 FX センド経路、パノラマ設定およびレベル設定 5
2.2 ステレオチャンネル 6
2.2.1 ステレオライン入力 6
2.2.2 イコライザーステレオチャンネル (802) 6
2.2.3 FX センド経路、バランス設定およびレベル設定 6
2.3 接続フィールドおよびメインセクション 6
2.3.1 エフェクト経路 センド / リターン 6
2.3.2 モニターミックスおよびメインミックス 7
2.3.3 2-TRACK のコネクタ 7
2.3.4 信号の割り当て 8
2.3.5 ファントム電源供給および LED 表示 8
3. 設置方法 **8**
3.1 電源接続 8
3.2 オーディオ接続 9
4. 技術仕様 **10**

ありがとう

XENYX 1202/1002/802/502 をお買い求め頂き、まことにありがとうございます。弊社の XENYX 1202/1002/802/502 はその小型な作ながら驚くほどの柔軟性と素晴らしいオーディオ特性を持ったミキサーです。

XENYX シリーズはミキサーの技術発展においての新機軸となります。ファンタム供給可能な新型マイクプリ、バランス型ライン入力、強力なエフェクト部を搭載し、XENYX シリーズのミキサーはライブ及びスタジオの使用にも最適に装備されております。技術革新の回路によってお客様の XENYX は比類なき暖かなアナログサウンドを生み出します。そしてそのクラスにおいての最高なミキサーとして最新デジタル技術が搭載され、アナログとデジタルの長所を集約しました。

入出力には、マイク入力 (+48 V ファントム電源供給機能装備)、ライン入力、エフェクト機器用接続端子、2 トラックマスター機器 (DAT レコーダーなど) およびモニターシステム (パワーアンプ付モニタースピーカー、502 を除く) 用接続端子が搭載されています。

JP 安全にお使いいただくために

注意

感電の.恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル（¼" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル）を使用してください。

注意

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

注意

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

注意

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用の前に良くお読みください。

注意

1. 取扱説明書を通してご覧ください。

2. 取扱説明書を大切に保管してください。

3. 警告に従ってください。

4. 指示に従ってください。

5. 本機を水の近くで使用しないでください。

6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。

8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ(三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広くなっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。

17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

JP

1. 概要

XENYX Mic Preamps

マイク回路にハイ・エンドの XENYX Mic プリアンプを配置し、その高音質と力強さは、高価な外部プリアンプにも匹敵します。

- 130 dB のダイナミックレンジで余裕のヘッドルーム
- 10 Hz 以下から 200 kHz 以上という帯域幅により、どのような微妙な特色も余すことなく伝えることが可能です
- 2SV888 トランジスター付きのノイズと歪みを極度に抑えた回路により、自然で透明のある信号の再生をお約束いたします
- あらゆるマイクへの対応が可能です (60 dB までの増幅および +48 V ファントム電源供給)
- 24 ビット / 192 khz HD レコーダーのダイナミックレンジをフルに活用することで、妥協のない理想的なオーディオ品質が達成可能です

「ブリティッシュ EQ」

XENYX シリーズのイコライザーは素晴らしい暖かさと特徴のある音色により、世界中で認められ、伝説になりつつある高品質のイギリス製の回路に基づいて設計されております。さらにこれらのイコライザーを極端なゲインの設定にでも、すぐれた音質特性をお約束いたします。

ご注意!

◊ **過大な音量は聴覚障害やヘッドフォンおよびスピーカーの故障原因となる恐れがあることにご注意ください。本機に電源を投入する際には、メインセクションの MAIN MIX コントローラーを左端まで回しておいてください。常時、適正な音量維持を心がけてください。**

接続の際の注意 (重要)

◊ **電波の強い放送局や高周波音源の範囲内では、音質が減退する可能性があります。その場合は、送信機と機器の距離を離し、すべての接続にシールドケーブルを使用してください。**

1.1 一般的なミキサー機能

ミキサーの基本的機能とは以下の 3 機能です。

- **信号処理:** 前置増幅、レベル調整、エフェクトのミキシング周波数帯域補正
- **信号配分:** 再生媒体 (ライブ PA およびステージモニタリング、スタジオ、コントロールルームヘッドフォン、リールデッキなど) へ、処理された各信号を集積および配分、サブグループ内でのさらなる信号処理
- **ミキシング:** 各信号のスピーカーレベルおよび周波数配分設定およびミックス全体のレベルチェック (レコーディング機器、クロスオーバー周波数およびパワーアンプへの適合のため) これらの重要機能に加え、他の各種機能が搭載されています。

上記の機能課題に理想的にマッチした Behringer 社製ミキサーの外装には、信号経路を理解しやすいデザインが採用されています。

1.2 ハンドブック

このハンドブックでは、操作部に関する概要をユーザーの皆様にご理解いただき、同時にそれらの応用に関する詳細説明をおこなうよう構成されています。各構造の関連性を敏速にご理解いただけるよう、各操作部を機能別グループにまとめました。各章の始めに該当の操作部をイラストで表示してあります。

◊ **同梱のブロック図では、各入力 / 出力端子、両端子間のスイッチおよびコントローラーの接続構成を表示しています。**

一度、マイク入力から Aux センドジャック 1 への信号フローをたどってみてください。多種多様な可能性の数々に躊躇していませんか。本当は思ったほど難しいものではないのです。同時に操作部一覧をご覧になれば、このミキサーのことをより早くご理解いただけることでしょう。すぐにこのミキサーに秘められた可能性の全てをフル活用できるようになるのです。

何らかのテーマに関する詳細説明が必要な場合には、是非我々のウェブサイト http://behringer.com を訪れてみてください。ここでは例えばエフェクトやコントロールアンプの応用に関する詳細説明などを紹介しています。

1.3 ご使用の前に

1.3.1 出荷

安全輸送のため、工場出荷時には充分な注意を払って梱包されていますが、万一、包装材に損傷が見うけられる場合にはミキサー本体の外部損傷についても確認をおこなってください。

◊ **本機が万一故障した場合には、保証請求権が無効となる恐れがありますので当社へは直接返送せず、必ず販売店および運送会社へご連絡下さい。**

1.3.2 使用開始

機器の過熱を防ぐため、充分な換気に留意し、本機を暖房装置およびラインアンプ付近へ設置することはお避けください。

◊ **電源アダプターが電源に接続されている状態では XENYX を絶対にアダプターに接続せず、スイッチを切ったミキサーと電源アダプターをまず接続した後で電源コンセントに接続してください!**

◊ **必ず全装置にアース処理をおこなうようご注意ください。装置および電源線のアースを除去もしくは無効力状態にすることは大変危険ですので、絶対におこなわないでください。**

◊ **本装置の設置および操作は専門家だけがおこなうようにしてください。設置作業中および設置作業完了後には、静電気などの影響を避けるため、作業者のアースが確保されていることを常時確認してください。**

1.3.3 オンライン登録

ご購入後は、新しい Behringer 機器をぜひご登録ください。http://behringer.com にアクセスして、保証条件をご確認ください。Behringer 販売代理店がお近くにない場合は、behringer.com の “Support” に記載されている該当地域の Behringer 代理店までお問い合わせください。該当地域が記載されていない場合は、behringer.com の “Support” にある “Online Support” で問題を解決できるかどうか確認してください。または、製品を返品する前に、behringer.com でオンライン保証請求の手続きを取ってください。

購入情報と機器を登録しておくことで、お客様からの修理のご依頼を迅速かつ効率的に処理することができます。

製品の登録にご協力ください!

JP

2. 操作部および各接続端子

この章ではこのミキサーの多彩な操作部について説明し、各コントローラー、スイッチおよび接続端子についての詳細説明を得られます。

2.1 モノラルチャンネル

2.1.1 マイク入力およびライン入力

図. 2.1: マイク入力およびライン入力の各接続端子とコントローラー

MIC

それぞれのモノ入力チャンネルは XLR コネクターを使用してバランス型マイクロフォンを接続できます。そしてまた、スイッチの切り替えによりコンデンサーマイク用 +48 V ファントム電源も供給できます。XENYX のプリアンプは、外部の高価なプリアンプでしか実現できない類稀な低歪、低ゲインノイズを提供できます。

◊ **ファントム電源を起動させる際には、再生システムの音声を切ってください。これをおこなわなかった場合、モニタリングスピーカーからスイッチ音が聞こえてしまいます。第 2.3.5 章「ファントム電源および LED 表示」も併せてご参照ください。**

LINE IN

モノラル入力にはさらに 6.3 mm フォンジャックによるバランス型ライン入力端子が装備されています。これらの入力端子にはアンバランス型プラグ (モノラルジャック) を接続することも可能です。

◊ **マイク入力およびライン入力の両チャンネルの同時使用は絶対にお避けください。**

GAIN

GAIN ポットは入力信号増幅の設定に使用します。信号源をいずれかの入力端子に接続したり、そこから切り離したりする際には、必ずこのコントローラーを左端まで回転させてください。

2.1.2 イコライザー

全モノラル入力チャンネルには 3 バンド (502 は 2 バンド)・サウンドコントローラーが装備されています。各バンドごとに最高 15 dB の高低調整が可能です。各バンドを真中に設定するとイコライザーはニュートラルとなります。

XENYX シリーズに搭載されているブリティッシュ EQ は、有名な高級ミキサーで使用されている回路に基づき、不必要な効果を伴わず暖かい音を作り出すことができます。それ故、通常のイコライザーと異なり、ゲインを ±15 dB という極端な設定にしてもフェーズ移行や帯域幅制限などの効果が無く非常に音楽的なイコライザーなります。

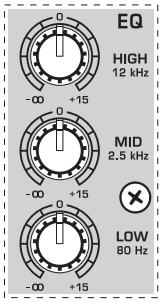


図. 2.2: モノラル入力チャンネルのサウンドコントロール

EQ

高域 (HIGH) および低域バンド (LOW) にはシェルヴィング・フィルターを採用しており高域・低域カットオフ周波数の全周波数の高低調整をおこなうことができます。高域および低域バンドのカットオフ周波数は 12 kHz から 80 Hz です。1202/1002/802 のミッドバンドはピークフィルターとして機能し、中域周波数は約 2.5 kHz です。

LOW CUT

さらにモノラルチャンネル (1202 および 1002) には傾斜の強い **LOW CUT** フィルター (18 dB / オクターブ、75 Hz 時 -3 dB) が装備されており、好ましくない低域周波数信号を削除することができます。

2.1.3 FX センド経路、パノラマ設定およびレベル設定

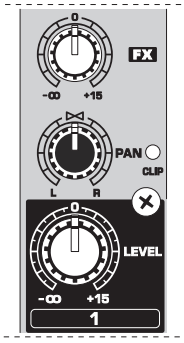


図. 2.3: FX センド / パノラマ / レベルコントローラー

FX

FX センド経路 (または AUX センド経路) により、単数および複数のチャンネルから信号を取り出したり、一本の回路上 (バス) に集積したりすることが可能です。この際、FX センドジャックから信号を操作することができます (外部機器からエフェクト効果をかける等)。リターン経路としては AUX リターンジャック (802) および通常のチャンネル経路をご使用いただけます。各 FX センド経路はモノラル出力となっており、+15 dB までの増幅が可能です。502 には FX センド経路はついていません。

各名称からもわかる通り、これら 3 台の XENYX ミキサーに装備された FX 経路は、エフェクト機器への接続用として用意されています。これらはポスト・フェーダーとなっており、エフェクト音量はチャンネルフェーダーの後のチャンネルに施されます。これがおこなわれなかった場合、フェーダーが完全に引いてしまっても、エフェクト信号が聞こえてしまうことになるのです。

JP

PAN

PAN コントローラーにより、ステレオ領域内におけるチャンネル信号の位置を設定します。コンスタント・パワー特性を有するこの機構では、ステレオパノラマ内の信号位置に関係なくレベル量を一定に保つことが可能です。

LEVEL

LEVEL コントローラーにより、メインミックス内のチャンネル信号のレベルを設定します。

CLIP

入力信号が高くなりすぎると、モノラルチャンネルの **CLIP**-LED 表示が点灯します。この場合には、GAIN コントローラーを使用し、LED ランプが消えるまで前置増幅を下げてください。

2.2 ステレオチャンネル

2.2.1 ステレオライン入力

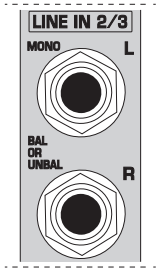


図. 2.4: ステレオライン入力

LINE IN

各ステレオチャンネルには、左右チャンネルの各フォンジャックにバランス型ラインレベル入力が 2 つずつ装備されています。チャンネルをモノラル使用する際には、「L」ジャックのみを使います。ステレオチャンネルは典型的なラインレベル信号用に構成されています。

両方のジャックにはアンバランス型プラグを接続することも可能です。

2.2.2 イコライザーステレオチャンネル (802)

XENYX 802 の各ステレオチャンネルには 3 バンドイコライザーが装備されています。当然ながら、これらのイコライザーはステレオ方式となっており、フィルター特性および分割周波数に関してはモノラルチャンネルの場合と同様です。ステレオ信号の周波数修正をおこなう場合、モノラルイコライザーでおこなうと、左右チャンネル間に設定の相違が発生してしまうことがよくあります。ステレオイコライザーでは、これを同時におこなうことが可能となるのです。

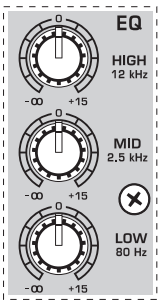


図. 2.5: ステレオ入力チャンネルのサウンドコントロール

2.2.3 FX センド経路、バランス設定およびレベル設定

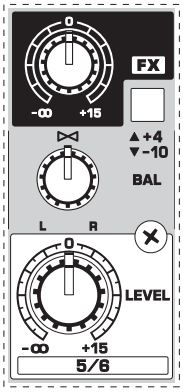


図. 2.6: FX センド / バランス / レベルコントローラー

FX

ステレオチャンネルの **FX** センド経路はモノラルチャンネルと同様の機能を有します。両方の FX センド経路はモノラル方式となっているため、信号が一つのモノラル出力としてミックスされてから FX バス (一本の回路) へ送られます。

BAL

チャンネルのステレオ出力をおこなう際には、左右の入力信号が左または右のメインミックスバスへ出力される前の、相対的な左右入力信号の割合を **BAL** (バランス) コントローラーで調節します。左側のライン入力によりチャンネルをモノラルとして使用する場合、このコントローラーはモノラルチャンネルの PAN コントローラーと同様の機能を有します。

LEVEL

モノラルチャンネルの場合と同様、ステレオチャンネルの **LEVEL** コントローラーにより、メインミックス内のチャンネル信号レベルを設定できます。

+4/-10

XENYX 1002 および 1202 のステレオ入力には、入力レベル調整用スイッチが装備されており、+4 dBu ~ -10 dBV 間の入力感度の切替が可能です。-10 dBV (ホームレコーディングレベル) に設定した場合、+4 dBu (スタジオレベル) の場合に比べて入力感度が高くなります。

2.3 接続フィールドおよびメインセクション

2.3.1 エフェクト経路 センド / リターン

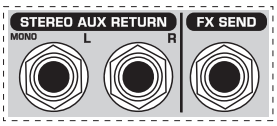


図. 2.7: FX センド / リターン接続端子

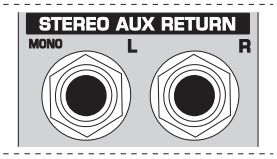


図. 2.8: FX センド / リターン・コントローラー

STEREO AUX RETURN

802 の場合のみ: FX コントローラーで作成したエフェクトミックスのリターン経路として **STEREO AUX RETURN** ジャックが装備されていますので、ここにエフェクト機器の出力信号を接続してください。これらのジャックは追加入力用としても使用できますが、この場合、別のチャンネルを通してエフェクト信号をミキサー内に再度送ることが必要です。このため、チャンネル EQ を使用し、エフェクト信号の周波数帯域を変化させることも可能なのです。

◊ **一つのチャンネルをエフェクトリターン経路としてご使用の際には、フィードバック発生を防ぐため、該当チャンネルの FX コントローラーを左端まで回しておいてください。**

左側のジャックのみに接続がおこなわれている場合には、自動的に AUX RETURN はモノラル出力となります。メインミックス内のエフェクト信号の割合設定をおこなうには、AUX RETURN (AUX リターン) コントローラーを使用してください。

FX SEND

入力チャンネルの FX コントローラー (502 を除く) から引き出したポストフェーダー FX 信号が FX SEND ジャックに流れますので、ここにエフェクト機器入力を接続してください。FX SEND ジャックのレベル調整はメインセクションの FX SEND コントローラーでおこなえます (1202 および 1002 のみ)。

2.3.2 モニターミックスおよびメインミックス

PHONES/CONTROL ROOM

PHONES 接続端子 (上記接続フィールド参照) はステレオフォンジャックとして装備されていますので、ここにヘッドフォンを接続してください。**CTRL ROOM OUT** ジャック (アンバランス型フォンジャック) を使用し、信号を総体的 (エフェクトミックスおよびメインミックス) もしくは個別にコントロールすることが可能です。PHONES/CONTROL ROOM コントローラーにより、両方の出力レベルを設定することができます。CTRL ROOM OUT ジャックは 502 には装備されていません。

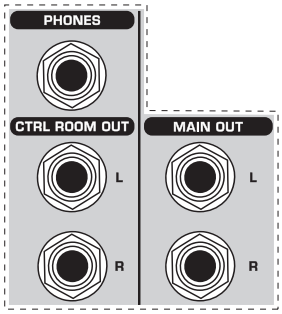


図. 2.9: モニターミックスおよびメインミックス接続端子

MAIN MIX

MAIN OUT ジャックはモノラルフォンジャックとしてアンバランス型に装備されています。ここでのメインミックス総体信号のレベルはおよそ 0 dBu となっています。**MAIN MIX** フェーダーにより出力音量を設定することが可能です。また出力音量設定用として、XENYX 502 および 802 にはコントロールダイヤルが装備されています。

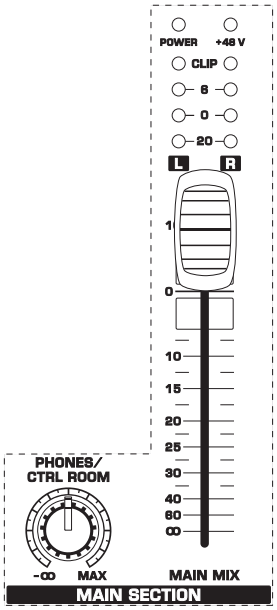


図. 2.10: モニターコントローラーおよびメインミックス・フェーダー

2.3.3 2-TRACK のコネクタ

2-TRACK INPUT

2-TRACK INPUT ジャックには、CD プレーヤーやテープデッキなどの外部信号源を接続します。もう 1 機の XENYX や当社の ULTRALINK PRO MX882 などからの出力信号をこれらのジャックに接続し、ステレオライン入力として使用することも可能です。また、通常メインミックス信号をモニタリングしたい場合、2 トラック・プレイバック (もしくはその他の外部ソース) などの例外状況が存在しますが、2-TRACK INPUT を音源セレクターの装備された Hi-Fi アンプと接続することにより、追加音源のモニタリングも簡単におこなえます。

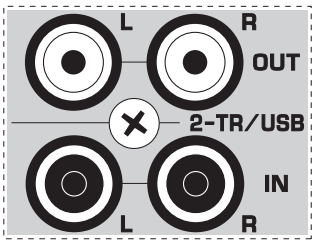


図. 2.11: テープ入力 / 出力

JP

2-TRACK OUTPUT

これらの接続端子は MAIN OUT と平行に配線されており、ステレオ総体をアンバランス出力することを可能としていますので、ここにレコーディング機器入力を接続してください。出力レベルの設定には、高精密 MAIN MIX フェーダーおよび MAIN MIX コントロールダイヤルを使用します。

2.3.4 信号の割り当て

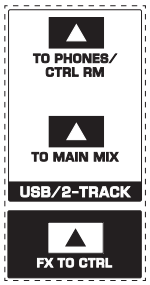


図. 2.12: メインセクション内の割り当てスイッチ

2-TR TO MIX

2-TR TO MIX スイッチを押すと、メインミックス内の 2 トラック入力が起動し、追加入力 (バンド挿入、MIDI 楽器およびさらに加工する必要のないその他の信号源用) として使用することが可能となります。

2-TR TO CTRL ROOM (502 は 2-TR TO PHONES)

モニター出力上 (CTRL ROOM OUT) で 2 トラック入力を聞きたい場合には、2-TR TO CTRL ROOM スイッチを押すと、モニタースピーカーやヘッドフォンによるバックバンドのチェックが簡単になります。

◊ **2-TRACK OUTPUT を通して信号をレコーディングし、同時に 2-TRACK INPUT を通してモニタリングする場合には、2-TR TO MIX スイッチを押していない状態にしておいてください。このため、この信号がメインミックスを通して再度 2-TRACK OUTPUT へと送り出されると、ループが発生する可能性がありますが、テープ信号をモニタースピーカーおよびヘッドフォンに送る (2-TR TO CTRL ROOM を使用) ことにより、メインミックスとは異なり、これらの信号が 2-TRACK OUTPUT に送り出されることはありません。**

FX TO CTRL

ヘッドフォンおよびモニタースピーカーを使用し、FX センド信号のみをモニタリングする場合には **FX TO CTRL** スイッチを押してください。これによりメインミックス信号の音量が切られ、FX SEND 出力信号のみがモニタリングできるようになります。XENYX 802 および 502 にはこのスイッチが装備されていません。

2.3.5 ファントム電源供給および LED 表示

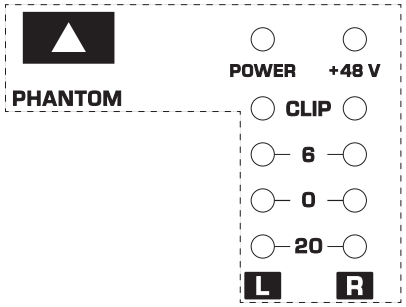


図. 2.13: ファントム電源供給および各コントロール LED

ファントム電源

PHANTOM スイッチにより、モノラルチャンネルの XLR ジャックへのファントム電源供給機能を起動させます。この機能はコンデンサーマイクを使用する際に必要となります。この機能が起動されると、赤色の +48 V LED ランプが点灯します。通常はダイナミックマイク (バランス型) のご使用も可能です。不明点に関してはマイクの各製造元にお問い合わせください。

◊ **ファントム電源を起動中にはマイクをミックス (もしくはステージボックス、ウォールボックス) に接続しないでください。電源を入れる前にマイクを接続しておいてください。ファントム電源を入れる前には、モニタースピーカーおよび PA スピーカーの音量を切っておいてください。電源投入後約 1 分間待ち、システムが安定してから入力増幅の設定をおこなってください。**

◊ **ご注意! ファントム電源で使用する際には、MIC 入力ジャックへのアンバランス型 XLR 接続 (PIN 1 および 3 の接続) を絶対におこなわないでください。**

POWER

POWER LED 表示は機器の電源投入を示します。

レベル表示

高精確 4 セグメント・レベル表示により、表示信号の強弱が常時正確にご覧いただけます。

レベル調整:

レベルを入れる際には、入力チャンネルの LEVEL コントローラーを中位置 (0 dB) に設定し、GAIN コントローラーで入力増幅を 0 dB に上げてください。

デジタルレコーダーを使用してレコーディングをおこなう際には、レコーダーのピークメーターが 0 dB を超過しないようにしてください。アナログ方式の場合とは異なり、デジタル方式でレコーディングおこなった場合、微小かつ突発的な過入力も耳障りなデジタル歪み発生の原因となります。

◊ **XENYX に装備されているピークメーターは、ほぼ周波数依存性なくレベルを表示します。信号全種に対してレコーディングレベルを 0 dB とすることが推奨されます。**

3. 設置方法

3.1 電源接続

AC POWER IN

電源供給は、後方にある 3 極電源によりおこなわれます。ここに同梱の AC アダプターを接続してください。この電源接続方法は必要安全基準を満たしています。

◊ **本機ご使用の際には、同梱の電源アダプターのみをご使用ください。**

◊ **電源アダプターが電源に接続されている状態では XENYX を絶対にアダプターに接続せず、ミキサーと電源アダプターをまず接続した後で電源コンセントに接続してください。**

◊ **本機ご使用中、電源アダプターおよびミキサー本体が発熱しますが、これは普通の現象です。**

JP

3.2 オーディオ接続

多彩な用途には、多種かつ多数のケーブルが必要となります。以下の図では、各ケーブル購入の際の留意点をご覧いただけます。常時、高品質のケーブルをご使用ください。

2 トラック入力および出力には、市販のピンラグ・ケーブルをご使用ください。

アンバランス型機器をバランス入力 / 出力に接続することも可能です。この際には、モノラルジャックをご使用になるかステレオジャックのリングとシャフト (XLR コネクターの場合、ピン 1 とピン3) を接続するようにしてください。

◊ **ご注意! ファントム電源で使用する際には、MIC 入力ジャックへのアンバランス型 XLR 接続 (PIN 1 および 3 の接続) を絶対におこなわないでください。**

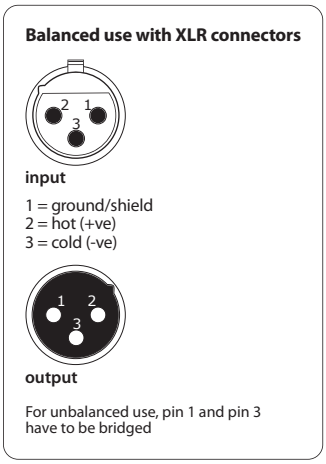


図. 3.1: XLR 接続

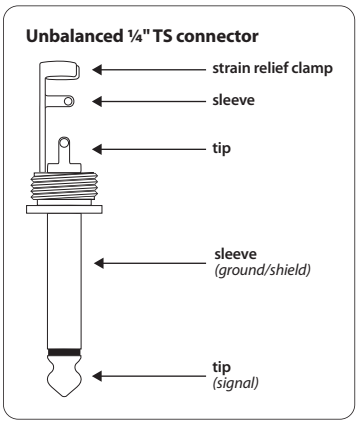


図. 3.2: 6.3 mm モノラルフォンプラグ

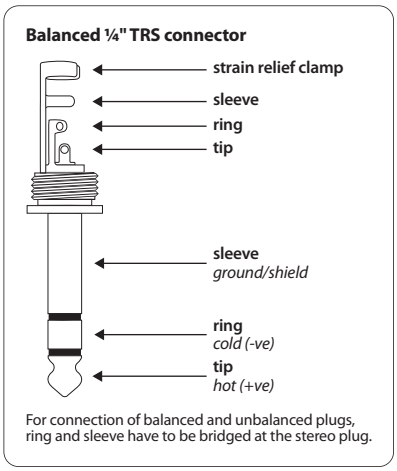


図. 3.3: 6.3 mm ステレオフォンプラグ

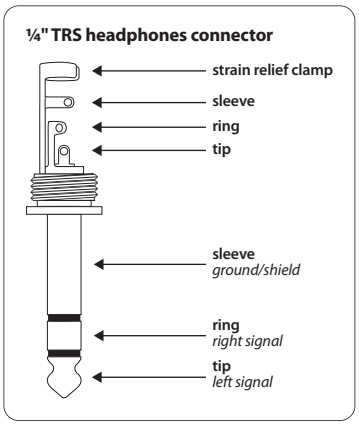


図. 3.4: ヘッドフォン・ステレオフォンプラグ

JP

4. 技術仕様

モノラル入力

マイク入力 (XENYX Mic Preamp)

タイプ	XLR 接続, フォンジャック, 別系統入力

Mic E.I.N.[1] (20 Hz - 20 kHz)

@ 0 Ω 入力インピーダンス	-134 dB / 135.7 dB 出力スケール
@ 50 Ω 入力インピーダンス	-131 dB / 133.3 dB 出力スケール
@ 150 Ω 入力インピーダンス	-129 dB / 130.5 dB 出力スケール

周波数帯域

<10 Hz - 150 kHz	-1 dB
<10 Hz - 200 kHz	-3 dB
増幅域	+10 dB から +60 dB
最高入力レベル	+12 dBu @ +10 dB ゲイン
インピーダンス	約 2.6 kΩ バランス
S/N 比	110 dB / 112 dB 出力スケール (0 dBu In @ +22 dB ゲイン)
歪み率 (THD + N)	0.005% / 0.004% 出力スケール

ライン入力

タイプ	6.3 mm ジャック, フォンジャック
インピーダンス	約 20 kΩ バランス, 約 10 kΩ アンバランス
増幅域	-10 dB から +40 dB
最高入力レベル	+22 dBu @ 0 dB ゲイン

フェードアウト減衰[2] (クロストーク減衰)

メインフェーダーが閉じている場合	90 dB
チャンネル音量を切っている場合	89.5 dB
チャンネルフェーダーが閉じている場合	89 dB

周波数帯域 (Mic In → Main Out)

<10 Hz - 90 kHz	+0 dB / -1 dB
<10 Hz - 160 kHz	+0 dB / -3 dB

ステレオ入力

タイプ	6.3 mm ジャック, フォンジャック
インピーダンス	約 20 kΩ
最高入力レベル	+22 dBu

イコライザ

EQ モノラルチャンネル

低域	80 Hz / ±15 dB
Mid	2.5 kHz / ±15 dB
高域	12 kHz / ±15 dB

EQ ステレオチャンネル

低域	80 Hz / ±15 dB
Mid	2.5 kHz / ±15 dB
高域	12 kHz / ±15 dB

Send / リターン

Aux Sends

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 120 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

Stereo Aux Returns

タイプ	6.3 mm ジャック, フォンジャック
インピーダンス	約 20 kΩ バランス / 約 10 kΩ アンバランス
最高入力レベル	+22 dBu

Outputs

メイン出力

タイプ	6.3 mm ジャック, アンバランス
インピーダンス	約 120 Ω アンバランス
最大出力レベル	+22 dBu

コントロールルーム出力

タイプ	6.3 mm モノラルフォンジャック, アンバランス
インピーダンス	約 120 Ω
最大出力レベル	+22 dBu

ヘッドフォン出力

タイプ	6.3 mm ジャック , アンバランス
最大出力レベル	+19 dBu / 150 Ω (+25 dBm)

メインミックス・システムデータ[3] (ノイズ)

Main mix @ -∞, チャンネルフェーダー @ -∞	-106 dB / -109 dB 出力スケール
Main mix @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ -∞	-95 dB / -98 dB 出力スケール
Main mix @ 0 dB, チャンネルフェーダー @ 0 dB	-84 dB / -87 dB 出力スケール

JP

電源供給

1002/802/502

消費電力	13 W
米国 / カナダ	
電源アダプター	Behringer PSU MX3UL
電源電圧	120 V~, 60 Hz
ヨーロッパ / 英国 / オーストラリア	
電源アダプター	Behringer PSU MX3EU
電源電圧	230 V~, 50 Hz
中国	
電源アダプター	Behringer PSU MX3CC
Input	220 V~ 50 Hz; 80 mA
Output	2 x 18.5 V~, 2 x 150 mA
韓国	
電源アダプター	Behringer PSU MX3KR
電源電圧	220 V~, 60 Hz
日本	
電源アダプター	Behringer PSU MX3JP
電源電圧	100 V~, 50/60 Hz

1202

消費電力	20 W
米国 / カナダ	
電源アダプター	Behringer PSU MX5UL
電源電圧	120 V~, 60 Hz
ヨーロッパ / 英国 / オーストラリア	
電源アダプター	Behringer PSU MX5EU
電源電圧	230 V~, 50 Hz
中国	
電源アダプター	Behringer PSU MX5CC
Input	220 V~ 50 Hz; 150 mA
Output	2 x 17.5 V~, 2 x 650 mA
韓国	
電源アダプター	Behringer PSU MX5KR
電源電圧	220 V~, 60 Hz
日本	
電源アダプター	Behringer PSU MX5JP
電源電圧	100 V~, 50/60 Hz

外形寸法および重量

1202

外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行)	1.9 x 9.5 x 8.7" 47 x 220 x 242 mm
質量 (正味重量)	4.8 lbs / 2.2 kg

1002

外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行)	1.9 x 7.4 x 8.7" 47 x 189 x 220 mm
質量 (正味重量)	3.5 lbs / 1.6 kg

802

外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行)	1.9 x 7.4 x 8.7" 47 x 189 x 220 mm
質量 (正味重量)	3.5 lbs / 1.6 kg

502

外形寸法 (高さ x 幅 x 奥行)	1.9 x 5.3 x 7" 47 x 134 x 177 mm
質量 (正味重量)	2.6 lbs / 1.2 kg

1 Equivalent Input Noise

2 0 dBu あたり 1 kHz rel.、20 Hz ~ 20 kHz、ライン入力、メイン出力、ゲイン @ ユニティー

3 20 Hz ~ 20 kHz、メイン出力によるチャンネル 1~4 ゲイン @ ユニティー、サウンドコントロール ニュートラル、全チャンネル メインミックス設定、チャンネル 1/3 左端、チャンネル 2/4 右端レファレンス = +6 dBu

Behringer 社は、最高の品質水準を保つ努力を常に行っています。必要と思われる改良等は、事前の予告なしに行われますので、技術データおよび製品の写真が実物と多少相違する場合がありますが、あらかじめご了承ください。技術仕様および外観は予告なく変更する場合があります。

We Hear You

behringer